

Japan River Restoration Network News Letter

発行：日本河川・流域再生
ネットワーク事務局

〒102-0082
東京都千代田区一番町8番地
一番町FSビル3階
財団法人 リバーフロント整備センター内
Tel: 03-6032-7121
Fax: 03-6032-7456
E-mail: info@a-rr.net
URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

巻頭書記

JRRN ニュースレター第12号では、前号に引き続き、都市河川目黒川を通して日本河川の変遷と今を考える『目黒川の今昔 ~ 昭和47年と現在の写真比較』の上流編を掲載いたします。

また、今月よりJRRNの日本語版ホームページに新たな情報サービスを追加し、より利用者の利便性の向上を図る試みを行っております。サービスのあ

らましはトピックスとして掲載しております。

平成20年度は、ネットワークの更なる拡大に向け、団体・個人会員数の増加を図りながら、国内外の河川・流域の再生や水辺の活性化に関わる情報や人材リソースの充実化を目指していききたいと思います。

引き続き、JRRN 会員皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

活動報告

JRRNホームページの充実化に向けて

JRRN ホームページ (<http://www.a-rr.net/jp/>、以後、HP とする) が改訂されて約1年が経過しました。この春には、英語版 HP も機能の向上が図られ、海外の方への日本の水辺を発信する体制も整いました。今後は、ますますの情報の充実化と利便性、独自性の向上を図っていく所存です。

その内容の充実化の最初の試みとして、今月よりHP内の『水辺を見る・知る・学ぶ』のページで紹介している博物館 (<http://www.a-rr.net/jp/observe/>) の位置情報を容易にお調べいただける、地図情報サービスを試験導入し、運用を開始しました。

本地図情報サービスは、普及した無料のインターネットサービス (Google マップ) を利用しており、利用に際して新たにソフトウェアをインストールする等の作業は生じません。

この試験導入段階のサービスでは『水辺を見る・知る・学ぶ』のページで紹介している約130の河川・水辺・生物に関する博物館の位置情報を地図上から検索が可能となったほか、博物館へのアクセス方法の検索、地図上の施設の概要をJRRN ウェブサイトで確認することが可能になりました。是非一度おためし下さい。



地図検索サービスの入口

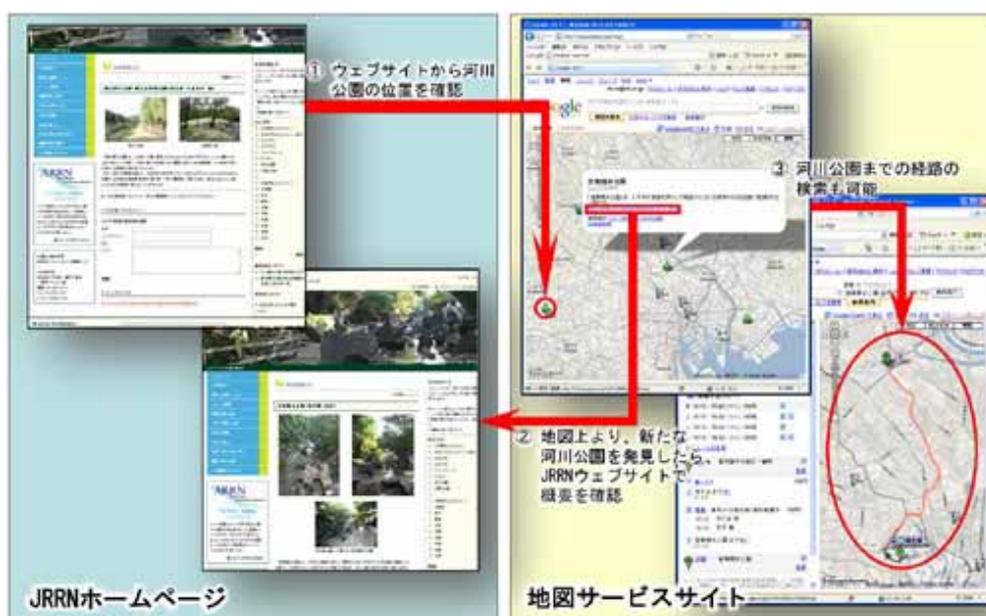
JRRN の一連の活動の目標に掲げる「人と川の関わりの再生」には、一人一人が水辺に興味を持ち、水辺に足を運び、体験することが大切なのだと考えています。一人でも多くの方がこの HP をきっかけに水辺に興味を持つ、あるいは新たな水辺を知るきっかけとなることを期待しています。



地図上に表示された博物館の位置

しかしながら、HP には未だ掲載情報が少なく、今後も引き続き情報の充実に努めて参る所存です。そのためには JRRN 会員の皆さんの知る河川、水辺の情報、あるいは関連イベントの情報等をご提供が不可欠です。

今後は、可能なページから地図情報の機能追加の試験導入を進めるとともに、多様な情報の充実を図ってまいります。



地図情報サービスの仕組み

寄稿記事

目黒川の今昔(上流編) ~ 昭和 47 年と現在の写真比較

寄稿者：JRRN 事務局

前号 (Vol.11 (2008 年 5 月)) では、目黒川の下流部、目黒区中目黒駅付近より下流の感潮域の変遷を紹介しました。本号では、それより上流の目黒川

及びその支川の変遷を紹介いたします。

具体的な地域は以下の地図に示したとおりです。



目黒川上流部及びその支川の地図

(世田谷区 HP を参考に作成)

目黒川には複数の支川が有り、その主要なものをいえば、中目黒駅直下流で合流する蛇崩川、池尻大橋上流で目黒川に合流する北沢川、烏山川等があります。多くの支川は水面が見られたのは過去のこととなり、現在は暗渠、緑道となり今は見る影もありません。

ません。

ここで幾つか写真を紹介します。写真の概略の撮影場所は上記地図に示したとおりです。昭和 47 年の写真はいずれも暗渠となる前のもので現在では非常に貴重な写真です。



昭和 47 年撮影 (東京都土木技術センター提供)



平成 19 年 (JRRN 撮影)

地点 目黒川 (宿山橋より下流をのぞむ)

現在の目黒川本川は、平時は落合水再生センターで高度処理された再生水が水環境改善を目的に放流されており、下流の感潮域と比べ、格段に水の透明度が高く、また悪臭もありません。

地点、の烏山川と北沢川はいずれも世田谷区内を流れる支川で、かつての川は緑道の下を流れ、上部は緑化された散策路が整備されています。現在、世田谷区内には16もの緑道が整備されており、その多くは昭和40年代後半に河川、水路上に整備されたものです。

一方、目黒区内の支川蛇崩川も暗渠となり、その上部には写真の歩行者用道路や駐輪場等が整備されています。

高度経済成長期には排水路の様相を呈していた河川の今を訪ねた結果、かつて排水が流入し濁っていた川、コンクリートで固定された三面張だった川の多くはその姿を地下に隠し、緑化、タイルで彩られた緑道や歩行者用道路へとその姿を変えていました。しかしながら、一部の緑道では、人工的な流路を創出し、かつての川の痕跡を今に残す取り組みも行われています。



昭和47年撮影（東京都土木技術センター提供）



平成20年（JRRN撮影）

地点 北沢川（光明橋より上流をのぞむ）



昭和47年撮影（東京都土木技術センター提供）



平成20年（JRRN撮影）

地点 烏山川（太子橋より上流をのぞむ）



左：昭和47年撮影（東京都土木技術センター提供）

右：平成19年（JRRN撮影）

地点 蛇崩川（石橋より上流をのぞむ）

余談ですが、高度経済成長期前後より首都圏だけでも多くの水域が失われており、特に二十三区内及び横浜などでその傾向が顕著にみられます。下の図中に赤で二十世紀中に失われた首都圏の河川、水路、湿地等の水辺を表していますが、特に東京湾沿岸地域は真っ赤に染まっています。この度の訪れた目黒

川周辺もまた、多くの水路が失われた地域であることが分かります。



都市化等で 20 世紀中に失われた首都圏の水辺



目黒川緑道と人工のせせらぎ
(千葉県在住 須藤氏提供)

この度訪れた目黒川緑道は、かつての悪臭漂う水路が緑道に変え、その縁を清らかな水が流れる環境がありました。この都市域に水辺を創出する二層河川工事の試みは、宇都宮市の釜川等、昭和後期に失

われた水辺を再現し、水辺を再現する事業として全国に複数の事例があります。いずれも市民に水辺のある生活環境を提供する、多くの市民に受け入れられる公共事業として、評価されるものではないでしょうか。その一方で、高度経済成長期に単調化し、失われたかつての環境の多様性を補うものではなく、『臭いものにはふたをした』状態であることに間違いは無く、今一度環境のあり方を考えさせられます。

こうした都会の水辺の変遷を振り返る度に、我々 JRRN の活動理念にある『次世代に引き継ぐべき豊かな水環境』とは何かという疑問にあたります。この問いには、『治水上安全な水辺』、『人間生活と自然環境のバランスを重視した水辺』等、人の数だけその答えはあると思います。しかしながら、同じ国土を共有し生活する我々は、少なくとも『同じ思想の元、国土の環境を整え、次世代に引き継いでいく』責務を負っている、という意見には異論を持つ方は少ないでしょう。

その思想（国土環境整備の方向性とも言うかもしれません）は、人との対話の中でしか生み出すことは出来ません。またこの対話の為には、近年の河川環境の整備や再生の動向についての知識、更にはそれを踏まえた自分なりの『次世代に引き継ぐべき豊かな水環境』の具体イメージを持つことが必要でしょう。そうしてはじめて、互いのイメージを対話の中で共有し、新たな方向性を見いだしていく段階へと進んでいくことと思います。

我々「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、そのために必要な知識と『次世代に引き継ぐべき豊かな水環境』のイメージを模索する人々の情報交換の機会を提供し、人々の求める水辺環境の創出・保全に貢献できればと思います。

最後に、昭和 47 年当時の貴重な目黒川の写真を快くご提供頂きました「東京都土木技術センター」(<http://doboku.metro.tokyo.jp/start/index.html>) の岩屋隆夫氏、高崎忠勝氏、目黒川緑道の写真をご提供いただいた須藤忠雄氏に謝意を表します。

会議・イベント等 (2008年6月・7月)

(ARRN・JRRN 主催・共催の会議・イベント)

ARRN/JRRN 主催・共催のイベントはありません。

(その他の河川再生に関する主なイベント)

流域圏連続講演会「流域圏から見た明日」

日時：

第1回 - 平成20年6月2日(月)13:30～17:30

第2回 - 平成20年6月9日(月)13:30～17:30

第3回 - 平成20年6月17日(火)13:30～17:30

会場：名古屋大学 IB 電子情報館 大講義室

主催：名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学
専攻水工学講座

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/679.html>

2008年度 河川技術に関するシンポジウム

日時：平成20年6月5日(木)～6日(金)

会場：東京大学農学部 弥生講堂

主催：社団法人土木学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/784.html>

第121回 河川文化を語る会『川エビから水辺の
小わざへ、そして環境マネジメントへ』

日時：平成20年6月28日(土)14:00～16:00

会場：「パルトピアやまぐち」 2階 大ホール

主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/597.html>

第122回 河川文化を語る会『水と文化の回廊～
松江市の水と文化の歴史をさぐる』

日時：平成20年7月14日(月)18:00～20:00

会場：厚生会館(全国土木建築健保)

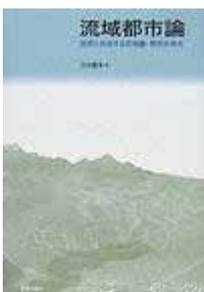
主催：社団法人日本河川協会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/676.html>

冊子・ビデオ等の紹介

流域都市論 自然と共生する流域圏・都市の再生
(2008.3 発行)

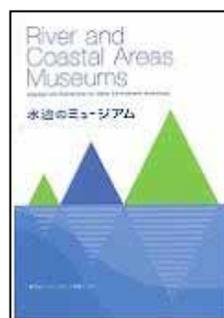
- ・著者：吉川 勝秀
- ・出版社名：鹿島出版会
- ・発行年月：2008年3月
- ・価格：¥5,040(税込)



本書では、自然と共生する流域圏・都市の再生のあり方について、日本国内と世界各国の事例を紹介しながら、再生に向けたシナリオを論じています。

水辺のミュージアム(2007.9 発行)

- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



全国の「水辺」にかかわる資料館・博物館の中から、特色のあるものを紹介した冊子が発行されました。一見して捉えにくい水辺の魅力や展示方法をわかりやすく紹介しています。

本書をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター技術普及部」までご連絡ください。送料のみご負担いただいた上で、無料で提供致します。

電話：03-3265-7121 / Fax：03-3265-7456

事務局からのお知らせ

JRRN は設立して 2 年目を迎えました。JRRN は今後も様々な活動を展開していきますので、まだご加入でない方は、是非 JRRN にご加入下さい。会員資格は下記の通りです。

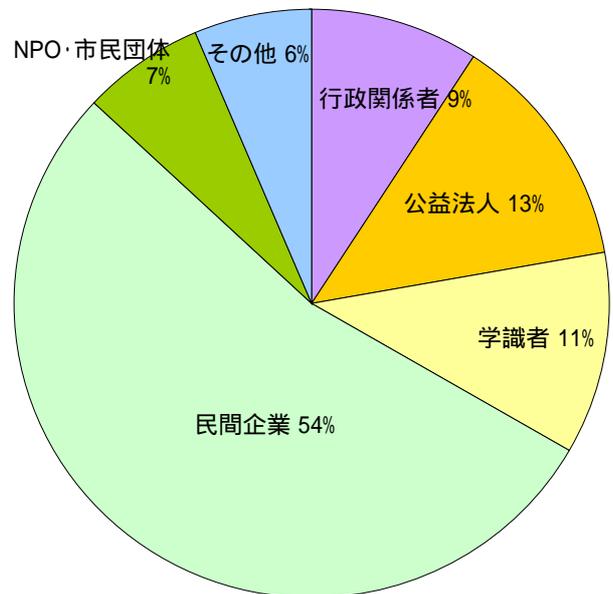
JRRN の登録資格

JRRN への登録は、個人、団体を問わず無料です。市民団体、NPO 法人、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、積極的に河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に 1 回～2 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 会員限定行事に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。



2008 年 5 月 29 日時点の個人会員構成

【問い合わせ先】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局

財団法人リバーフロント整備センター 技術普及部内
東京都千代田区一番町 8 番地 一番町 FS ビル

Tel: 03-3265-7121 Fax: 03-3265-7456

E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/>